

# 陸連時報 三

2020  
令和2年

1

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

## 目 次

2019年度 全国強化責任者会議	166
功労章・秩父宮章・高校優秀指導者章・中学優秀指導者章・勲功章・競技者育成章・日本記録賞	167
世界選手権視察報告2	171
2019 IAAF CECS Level II Lecturers Course 受講報告	173
東京マラソン前夜祭	174
第28回日本陸上競技連盟トレーナーセミナー開催案内	176
2019数字で見る陸上競技 Vol. 3	177
大会観戦ガイド	178
陸協NEWS	180
事務局からのお知らせ	182

## 公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

# 2019年度 全国強化責任者会議

日 時：2019年11月22日（金）13時00分～16時30分  
場 所：味の素ナショナルトレーニングセンター 大研修室  
出席者：尾縣専務理事、麻場強化委員長、強化ディレクター、  
杉井U20オリンピック強化コーチ  
協力団体強化責任者／都道府県陸上競技協会強化責任者

## 1. 挨拶（尾縣専務理事）

先月10月16日に東京オリンピックマラソン競歩の札幌開催が発表された。これまでMGCはじめ様々な活動に取り組んできたことを考えると、非常に悔しい出来事であった。しかし決まったからには後に引きずることはできない。札幌でのレースを想定し、これからさらに高いレベルを目指していただきたい。また、これに対して、オールジャパン体制で対応するため、各都道府県の皆様には全面的な協力をいただいている。レースの運営に関してさらに制度を高めて進めたいと思う。どうかご協力いただきたい。

ちょうど2年前に男子100mの日本記録が更新され、10秒の壁が破られた。今日に至るまで、14種目で日本記録が更新されている。この短期間でこれだけ記録が更新されるのは、恐らく日本の陸上競技の歴史上初めてであると思う。この背景には、強化体制の中の様々な取り組みがあるが、なによりこれに関して全国の皆さんがご協力・ご理解いただいたことが大きな力になっている。今のレベルアップはオールジャパン姿勢で築いたものであると感じる。改めてお礼申し上げたい。

最後に、東京オリンピック後、さらに陸上競技を盛り上げることも今から考えていかなければならないと感じている。「競技者育成プログラム」を進めていくことが東京オリンピック後の鍵になると思う。皆さんには是非このプログラムをご理解いただきたいと思う。

## 2. 議題

### (1) 2019年度活動報告および今後の日本代表選考方針

#### ①ドーハ2019世界陸上競技選手権大会活動報告

麻場強化委員長、山崎ディレクターより9～10月に開催されたドーハ2019世界陸上競技選手権大会活動報告があった。

日本大会前に日本記録を9つ更新してから挑めたが、入賞ラインが伸びている実態を報告。また、WAの示す方向性の不確定の部分も多いが、情報収集をして東京オリンピックに向かいたいことを報告。

#### ②U20 カテゴリー-日本代表の選考方針

杉井U20オリンピック強化コーチより、競技者育成指針に沿って強化を進めることを説明。今年からU20オリンピック育成競技者は、名称に従って大学1年生生まれも対象としたことを報告。

#### (2) 競技者育成プログラムについて

尾縣専務理事より概要の説明があり、麻場委員長より指針に基づき詳細をプログラムに落とし込まれた内容の説明があった。

また、山崎ディレクターより300m、300mHの実施の意義について以下の通り説明が行われた。

300m：世界のレースパターンや状況、その情報から示した強化の戦略方針、トレーニングにおける身体への負荷を考慮していることを説明。

300mH：現在シニアで国際的に活躍している選手の高校からの現在までのレースデータから強化上必要であることを説明。

さらに、杉井U20オリンピック強化コーチより強化育成部の取り組みについて、全国高校選抜の取り組みや、参加資格・参加標準記録の設定方法において日ごろのトレーニングへ影響があること、規格を変更、年齢区分変更による本年度の実績などを説明。

#### (3) 2022-23国民体育大会における実施種目(案)について

山崎ディレクターより、各開催県の要望を伺ったうえで強化戦略上検討し案を作成した種目設定上の流れを説明。

#### (4) 2020年度主要競技会日程(案)について

事務局より、高校総体が8月12日～16日に静岡で実施すること、全国高校選抜はオリンピックの関係でインターハイの開催時期が例年より遅れることから競技者への負担を考慮し実施をしないこと、10月のジュニアオリンピックは日産スタジアムで実施されることを報告。

#### (5) IAAFルールについて説明

事務局より、不正スタートの判断について、抗議の流れについて詳細に説明。

#### (6) 男子4×100mRの取り組みについて

日本陸上競技連盟科学委員会、強化委員会男子短距離スタッフの小林海氏に男子4×100mRにおける近年の取り組みについて紹介された。



# 功労章・秩父宮章・高校優秀指導者章・中学優秀指導者章・勲功章

2018年度功労章、秩父宮章、高校優秀指導者章、中学優秀指導者章、2019年度勲功章を、第74回国民体育大会陸上競技会開催期間中の10月5日（土）、国体会場である茨城県ひたちなか市・笠松運動公園陸上競技場で授与致しました。下記にて受章者の方々を紹介致します。

なお、ドーハ2019世界陸上競技選手権大会入賞者及びその指導者への勲功章、2019年度競技者育成章の授与は、12月16日（月）開催のアスレティックス・アワード2019で行う予定にしております。

## 2018年度功労章

（年齢・役職等は2019年3月31日現在）

区分	所属	氏名	役職
東京	東京	野澤 恒雄	東京陸上競技協会 監事
中国	岡山	神達 靖久	岡山陸上競技協会 専務理事
本部	学連	松本 正之	日本学生陸上競技連合 会長

## 2019年度勲功章

氏名	所属	種目	内容
相澤 晃	東洋大学	男子ハーフマラソン	第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ） 1位
池田 向希	東洋大学	男子20km競歩	第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ） 1位
宮本 大輔	東洋大学	男子4×100mリレー	第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ） 1位
染谷 佳大	中央大学	男子4×100mリレー	第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ） 1位
山下 潤	筑波大学	男子4×100mリレー	第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ） 1位
デーデー ブルーノ	東海大学	男子4×100mリレー	第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ） 1位
橋岡 優輝	日本大学	男子走幅跳	第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ） 1位
鈴木 優花	大東文化大学	女子ハーフマラソン	第30回ユニバーシアード競技大会（2019／ナポリ） 1位
酒井 俊幸	東洋大学	—	相澤晃の指導者
酒井 瑞穂	東洋大学	—	池田向希の指導者
梶原 道明	東洋大学	—	宮本大輔の指導者
星野 晃志	中央大学	—	染谷佳大の指導者
谷川 聡	筑波大学	—	山下潤の指導者
高野 進	東海大学	—	デーデー ブルーノの指導者
森長 正樹	日本大学	—	橋岡優輝の指導者
外園 隆	大東文化大学	—	鈴木優花の指導者

## 2018年度秩父宮章

(年齢・役職等は2018年3月31日現在)

No	地域	所属	氏名	役職
2150	北海道	北海道	米谷 元捷	北海道陸上競技協会 参与
2151	東北	青森	千葉 吾市	青森陸上競技協会 副会長
2152	東北	秋田	佐々木時夫	秋田陸上競技協会 副会長
2153	東北	山形	高橋 健二	東北陸上競技協会 会長
2154	関東	栃木	渡邊 光男	栃木陸上競技協会 評議員・企画運営委員
2155	関東	群馬	小林 馨	群馬陸上競技協会 副会長
2156	関東	埼玉	高木 英朗	埼玉陸上競技協会 理事
2157	関東	千葉	木内 俊秀	千葉陸上競技協会 専務理事
2158	関東	山梨	野口 英一	山梨陸上競技協会 会長
2159	東京	東京	貫井 勝之	東京陸上競技協会 普及強化委員会普及育成部長
2160	北陸	石川	大岩 為一	石川陸上競技協会 副会長
2161	北陸	福井	八木誠一郎	福井陸上競技協会 会長
2162	東海	静岡	大原 一夫	静岡陸上競技協会 事務局長
2163	東海	愛知	中尾 洋一	西三河陸上競技協会 副会長
2164	東海	愛知	兵藤 重二	愛知陸上競技協会 理事
2165	東海	三重	坂元 均	三重陸上競技協会 常務理事
2166	近畿	大阪	奥田二三夫	大阪陸上競技協会 常務理事
2167	近畿	兵庫	萩原 昭光	姫路市陸上競技協会 副会長
2168	近畿	奈良	小林 隆	奈良陸上競技協会 監事
2169	近畿	和歌山	川村 栄司	和歌山陸上競技協会 副会長
2170	中国	岡山	大上 陽之	岡山陸上競技協会 評議員
2171	中国	広島	元重 秀美	広島陸上競技協会 参与
2172	中国	山口	江村 勝利	山口陸上競技協会 評議員
2173	四国	徳島	西條 一之	徳島陸上競技協会 理事
2174	四国	高知	中山 正久	高知陸上競技協会 参与
2175	九州	福岡	酒井 寛	(元)福岡陸上競技協会 評議員
2176	九州	長崎	松元 利弘	九州陸上競技協会 理事
2177	九州	大分	円本 宗秋	大分陸上競技協会 評議員
2178	九州	熊本	戸上信二郎	九州陸上競技協会 理事
2179	本部	実業団	磯端 克明	(元)日本実業団陸上競技連合 理事
2180	本部	学連	浅見美弥子	日本学生陸上競技連合 参与
2181	本部	高体連	三國 一成	全国高等学校体育連盟陸上競技専門部 事務局長
2182	本部	普及育成委員会	小林 敬和	日本陸上競技連盟 普及育成副委員長
2183	本部	—	芦田 昭充	日本陸上競技連盟 評議員
2184	本部	—	松本 正義	日本陸上競技連盟 評議員

2018年度高校優秀指導者章

(年齢・役職等は2019年3月31日現在)

No.	地域	氏名	陸上の地位	指導実績				
				選手名	年	大会名	種目	順位
1	北海道	桂 譲	北海道陸上競技協会 強化委員	—	2017	全国高校総体	4x400mリレー	出場
2	青森	三浦 尚子	青森陸上競技協会 競歩強化コーチ	奈良岡翠欄	2018	国民体育大会	やり投	1位
3	岩手	藤井 雅史	岩手陸上競技協会 強化部長	川村 知巳	2015	全国高校総体	200m	1位
4	宮城	小関 浩信	宮城県高体連陸上競技専門部 常任委員	佐久間康太	2002	全国高校総体	三段跳	8位
5	秋田	南都 勲	秋田陸上競技協会 強化委員	長谷川裕貴	2012	全国高校総体	走高跳	2位
6	山形	後藤 正樹	山形県立遊佐高等学校 陸上競技部顧問	齋藤 早希	2012	全国高校総体	円盤投	2位
7	福島	三浦 武彦	福島陸上競技協会 理事長	阿部かすみ	2005	国民体育大会	200m	7位
8	茨城	下河邊昭二	茨城県高体連陸上競技専門部 副委員長	一ノ戸 崇	2012	全国高校総体	400mH	6位
9	栃木	栗原 浩司	栃木陸上競技協会 スターター主任	茂呂 綾子	1997	国民体育大会	やり投	1位
10	群馬	加藤 祐司	群馬県高体連陸上競技専門部 副委員長	森原 昌代	1998	全国高校総体	七種競技	2位
11	埼玉	野川 義則	埼玉県高体連陸上競技専門部 強化委員長	近藤 廉	2012	全国高校総体	円盤投	1位
12	千葉	松澤 誠	千葉県高体連陸上競技専門部 副委員長	加世田梨花	2016	U20世界選手権	5000m	8位
13	東京	川島 利治	東京都高体連陸上競技専門部 強化委員	下平 芳弘	2003	日本ジュニア選手権	800m	1位
14	神奈川	銭谷 満	神奈川陸上競技協会 強化部短距離ヘッドコーチ	古谷 拓夢	2015	全国高校総体	110mH	1位
15	山梨	横内 豊	山梨県立甲府工業高等学校 陸上駅伝部顧問	赤井悠次郎	2017	国民体育大会	走幅跳	4位
16	新潟	小林 要	新潟県高体連陸上競技専門部 専門部員	古川 諒	2010	全国高校総体	400m	3位
17	富山	村山 和夫	富山陸上競技協会 総務部長	亀沢 亜衣	2017	全国高校総体	ハンマー投	8位
18	石川	深浦 隆史	石川陸上競技協会 中・長距離強化部員	澤井 柚葉	2017	国民体育大会	800m	2位
19	福井	橋本 洋	福井陸上競技協会 強化副委員長	島田 雪菜	2016	全国高校総体	400m	5位
20	長野	山田 憲一	長野市陸上競技協会 理事	碓井 涼太	2013	全国高校総体	1500m	4位
21	静岡	菅間 友一	静岡市陸上競技協会 理事	高木 悠圭	2018	全国高校総体	200m	1位
22	愛知	鈴木 克哉	東三河陸上競技協会 強化委員長	伊奈 颯太	2018	U20日本選手権	400mH	1位
23	岐阜	坂谷 幸紀	岐阜県高体連陸上競技専門部 競技委員	長尾 勇佑	2008	全国高校総体	走幅跳	2位
24	三重	長屋 憲明	三重陸上競技協会 短距離コーチ	山路康太郎	2018	全国高校総体	100m	7位
25	滋賀	八木佐知男	滋賀県高体連陸上競技専門部 競技委員長・投擲強化コーチ	西川由香利	2002	全国高校総体	円盤投	3位
26	京都	美馬 勝博	京都府高体連陸上競技専門部 記録情報部委員	金子 暁	2007	全国高校総体	400m	出場
27	大阪	森 新	大阪陸上競技協会 短距離主任コーチ	大坂 将央	2010	全国高校総体	砲丸投	1位
28	兵庫	藤田 和洋	兵庫県高体連陸上競技専門部 神戸支部委員長	大六 拓海	2018	全国高校総体	三段跳	2位
29	奈良	小野澤孝夫	奈良県高体連陸上競技専門部 庶務会計部長	音村 篤海	2018	国民体育大会	100m	出場
30	和歌山	手平 裕紀	(元)和歌山陸上競技協会 強化部員	荒木 基	2018	国民体育大会	三段跳	1位
31	鳥取	矢崎 正人	(元)鳥取県高体連陸上競技専門部 駅伝副委員長	赤羽 竜之	2006	全国高校総体	1500m	2位
32	島根	吉川 正展	島根陸上競技協会 強化部長	永岡宗一郎	2018	全国高校総体	走幅跳	2位
33	岡山	蒲地 直志	岡山県高体連陸上競技専門部 常任理事	松本真由子	2007	全国高校総体	走高跳	1位
34	広島	三木 仁司	広島陸上競技協会 強化委員	村上 愛結	2018	全国高校総体	ハンマー投	6位
35	山口	村川 浩士	山口県立西京高等学校 陸上競技部監督	才原 麻衣	2018	国民体育大会	400mH	1位
36	徳島	村山 征生	徳島陸上競技協会 強化委員会跳躍部長	西川チカコ	2014	全国高校総体	砲丸投	1位
37	香川	三谷 昌輝	香川陸上競技協会 記録・情報副委員長	板東 琉太	2018	全国高校総体	走高跳	1位
38	愛媛	佐伯 昌彦	愛媛陸上競技協会 強化委員	八木 玲菜	2016	全国高校選抜	ハンマー投	2位
39	高知	井口 将志	高知県高体連陸上競技専門部 専門委員	池田 梨紗	2013	四国高校総体	やり投	1位
40	福岡	中村 久充	福岡県高体連陸上競技専門部 筑豊ブロック運営委員	小田 航平	2017	全国高校総体	ハンマー投	4位
41	佐賀	徳淵 克秀	佐賀陸上競技協会 強化部ハードル主任	堤 友希	2018	U18日本選手権	走幅跳	6位
42	長崎	岩元 一章	長崎陸上競技協会 強化部短距離ブロック部員	後藤 颯汰	2018	全国高校総体	400mH	6位
43	熊本	西山 公啓	(元)熊本県高体連駅伝競技専門部 副委員長	村上 藍	2018	全国高校総体	5000mW	1位
44	大分	矢野 徹	大分県立日田高等学校 陸上競技部監督	田中 宏樹	2007	全国高校総体	800m	出場
45	宮崎	池田 昌弘	宮崎県高体連陸上競技専門部 専門委員	松岡 知紀	2017	U18日本選手権	400m	3位
46	鹿児島	永野 三彦	鹿児島陸上競技協会 強化部コーチ	山元 祐季	2018	国民体育大会	やり投	2位
47	沖縄	上運天 誠	沖縄陸上競技協会 強化部長	南 辰貴	2018	国民体育大会	やり投	1位

## 2018年度中学優秀指導者章

(年齢・役職等は2019年3月31日現在)

No.	地域	氏名	陸上の地位	指導実績				
				選手名	年	大会名	種目	順位
1	北海道	有岡 希	十勝陸上競技協会 記録委員	菅原 広希	2018	全日本中学	800m	1位
2	青森	石岡 聖逸	外ヶ浜町立三厩中学校 陸上競技部顧問	田中 杏実	2018	全日本中学	砲丸投	3位
3	岩手	神崎 真樹	岩手県中体連陸上競技専門部 短距離コーチ	佐々木悠人	2017	ジュニアオリンピック	走幅跳	6位
4	宮城	佐藤 淳	宮城県中体連陸上競技専門部 強化委員短距離コーチ	佐藤 芹香	2014	全日本中学	100m	4位
5	秋田	長沼 祥子	秋田県中体連陸上競技専門部 部員	小川 実咲	2018	東北中学	200m	4位
6	山形	伊藤 重和	山形県中体連陸上競技専門部 ハードルブロック長	山木 伝説	2010	東北中学	400m	1位
7	福島	鈴木 貞喜	福島県中体連陸上競技専門部 長距離コーチ	遠藤 日向	2013	全日本中学	3000m	1位
8	茨城	川松 貴弘	茨城県中学校体育連盟陸上競技専門部 長距離コーチ	菅井 友貴	2002	ジュニアオリンピック	800m	3位
9	栃木	磯 泰弘	(元)栃木県中体連那須地区陸上競技専門部 副部長	土川 萌子	2007	全日本中学	走高跳	2位
10	群馬	田口 認	高崎市立群馬南中学校 陸上競技部顧問	井上 直紀	2018	全日本中学	100m	1位
11	埼玉	前野 一浩	埼玉県中体連陸上競技専門部 常任委員	日暮 大渡	2006	関東中学	110mH	3位
12	千葉	仲川未来雄	千葉県小中体連陸上競技専門部 副委員長	渡辺千奈津	2018	全日本中学	100m	1位
13	東京	氏部 和昭	東京都中体連陸上競技専門部 副部長	小林 結	2011	全日本中学	走幅跳	7位
14	神奈川	蛭田 雄一	神奈川陸上競技協会 強化部委員	片岡 巧	2017	ジュニアオリンピック	110mH	1位
15	山梨	保坂 伸也	山梨県小中体連陸上競技専門部 強化スタッフ	小山翔太郎	2016	全日本中学	800m	出場
16	新潟	藤田 衛	新潟県中体連陸上競技専門部 副部長	—	2018	全日本中学	4×100mリレー	3位
17	富山	田島 陸夫	富山陸上競技協会 審判部	—	2012	全日本中学	4×100mリレー	出場
18	石川	中川 奈穂	石川県中体連陸上競技専門部 短距離コーチ	坂井 希帆	2018	ジュニアオリンピック	100m	4位
19	福井	安田 英雅	福井県中体連陸上競技専門部 跳躍コーチ	山野 力	2013	ジュニアオリンピック	走幅跳	1位
20	長野	跡部 定一	長野陸上競技協会 普及強化委員会ジュニア部コーチ	土屋ほのか	2018	ジュニアオリンピック	100mH	1位
21	静岡	本田 守啓	浜松市立北浜中学校 陸上競技部顧問	米澤奈々香	2018	全日本中学	1500m	1位
22	愛知	長瀬 基延	愛知陸上競技協会 選手強化委員会ジュニア部強化コーチ	今井 駆	2018	全日本中学	走高跳	8位
23	岐阜	伊藤 充貴	岐阜県中体連陸上競技専門部 障害コーチ	山元 隼人	2006	全日本中学	砲丸投	3位
24	三重	竹内慎一郎	三重県中体連陸上競技専門部 短距離コーチ	山田 真大	2018	全日本中学	110mYH	2位
25	滋賀	吉田 享史	滋賀県中体連陸上競技専門部 副委員長	木村 茜	2008	全日本中学	100m	1位
26	京都	近藤 博史	京都府中体連陸上競技専門部 専門部長	池本かいり	2005	全日本中学	1500m	3位
27	大阪	高橋 敦司	大阪府中体連陸上競技部 専門委員会副委員長	青山 幸	1991	全日本中学	走高跳	1位
28	兵庫	渋谷 優美	兵庫県中体連陸上競技専門部 強化部副部長	西村 陽貴	2014	全日本中学	800m	2位
29	奈良	泉井 純子	奈良陸上競技協会 理事	—	2018	奈良県中学駅伝	駅伝	1位
30	和歌山	桑原 仁史	田辺・西牟婁陸上競技協会 副理事長	玉井 圭佑	2014	ジュニアオリンピック	棒高跳	出場
31	鳥取	阿部 雄一	鳥取県中体連陸上競技専門部 専門委員長	角 良子	2018	ジュニアオリンピック	100m	1位
32	島根	西村 淳	島根県中体連陸上競技専門部 地区委員	天野ひかり	2011	ジュニアオリンピック	ジャバックスロー	出場
33	岡山	尾川登太郎	岡山県中体連陸上競技専門部 理事	南田 彩伽	2014	全日本中学	四種競技	3位
34	広島	石田 積	広島市立安佐中学校 陸上競技部顧問	久保瑠里子	2003	全日本中学	800m	出場
35	山口	中島 光実	山口県中体連陸上競技専門部 長距離担当	大玉 華鈴	2014	全日本中学	四種競技	2位
36	徳島	宮成 誠樹	阿波市立吉野中学校 陸上競技部顧問	笠原 拓巳	2009	全日本中学	800m	3位
37	香川	黒田 桃子	香川陸上競技協会 中学部[チーム香川]走幅跳ブロックコーチ	鹿田 真翔	2018	全日本中学	110mH	1位
38	愛媛	田窪 直樹	今治市立立花中学校 陸上部監督	越智 心愛	2018	全日本中学	四種競技	4位
39	高知	橋本 雅代	高知県中体連陸上競技専門部 委員	濱村 柚香	2018	ジュニアオリンピック	ジャバックスロー	5位
40	福岡	白濱彰多夫	福岡市立高宮中学校 陸上競技部顧問	御崎 舞	2014	全日本中学	1500m	出場
41	佐賀	黒田 竜喜	佐賀陸上競技協会 強化部U15主任	古澤日菜向	2018	九州中学	1500m	出場
42	長崎	吉本 大起	島原市立有明中学校 陸上競技部コーチ	池田 成諒	2016	全日本中学	100m	6位
43	熊本	後藤 純矢	荒尾JAC コーチ	本村 孝太	2018	全日本中学	走幅跳	3位
44	大分	安倍 潤	大分県中体連陸上競技専門部 部員	安部 日菜	2018	ジュニアオリンピック	走幅跳	4位
45	宮崎	湯前 佳子	宮崎市陸上競技協会 理事	山村 息吹	2018	ジュニアオリンピック	100m	4位
46	鹿児島	小田原秀樹	鹿児島陸上競技協会 強化部員	山崎 梨空	2017	ジュニアオリンピック	走幅跳	1位
47	沖縄	外間 龍	沖縄県中体連陸上競技専門部 部員	友利 晟弓	2018	ジュニアオリンピック	円盤投	1位

# 世界選手権視察報告2

ドーハで開催されたIAAF世界陸上競技選手権大会では、2020年の競技運営を見据えた関係者も派遣された。

## 競技運営委員会

鈴木一弘 委員長：競技運営全般

関根春幸 副委員長：TIC

## 施設用器具委員会

山口 賢司 委員：技術総務

米岡 利昌 委員：技術総務

## 事務局

風間 明 事務局長：競技会ディレクター

関 幸生 国際担当部長：技術代表としてIAAF派遣

視察報告の2回目。

施設用器具委員会 幹事：山口 賢治

施設用器具委員会 委員：米岡 利昌

東京2020で技術総務を担当することから、日本陸連からIAAFならびに組織委員会に要請し、技術総務の一員として実際に活動することによる研修が実現した。技術総務の派遣は、2017年のロンドン世界選手権での高木委員長派遣に続き2回目。

## (1) テクニカルチームの体制

・ Technical Director (テクニカルディレクター)：キース・デビス氏 (イギリス)

・ Technical Manager (技術総務)：ヤコブ氏 (カタール)

・ FOP Assistant：山口・米岡 (日本)

・ FOP Advisor：イギリスからの応援チーム

・ FOP Team Supervisor (各種目担当技術総務) 5～6名

・ 各Supervisorの下にSports Equipment Team (用器具係) という作業員が十数名

Supervisor以上はすべてNTO資格者で組織委員会のメンバーを中心に成っている。地元カタールだけでなく近辺の国から集まっている。施設・器具関連の設置撤去はすべてこの部署で行っている。彼らは自身のことを“Technical Team”と呼んでいた。作業員は1日30ドルで日雇いをしているそう。各担当はlabor(労働者)と呼び自由に使っていた。

我々はFOP Assistantとして技術総務及びイギリスからの応援チームに付き、全競技の施設器具のチェック(米岡)・器具の検査(山口)の業務を中心に行った。

・ 出発関連-レーン標示・スタプロ設置

・ トラック関連-ハードル・移動障害設置撤去・水濠管理・緑石管理

・ 投てき関連-角度線・囲い等

・ 跳躍関連(走高跳・棒高跳・幅三段跳) - 踏切版・粘土板・助走路・砂場・マーカーの管理等

・ 器具庫管理・器具検査関連-各種目使用器具の準備管理・検査

・ 練習場関連

## (2) 会場

### ○競技場

・ Khalifa International Stadium (ハリーフア国際スタジアム) メイン競技場

直走路10レーン、曲走路9レーン。直線84.39m、曲走路半径が

36.500m。舗装材はMONDOTRACK WS、IAAF Class 1認証を持つ。今年のアジア選手権前に張り替えたが痛みはさほど感じられなかった。大会終了後はものすごい傷みようで張り替えが必要だと思った。

・ Khalifa International Stadium Warm Up Track (ハリーフア国際スタジアム) サブトラック

IAAF Class 2認証を持つ。走路は8レーン。舗装材はメインと同じMONDOTRACK WS。こちらは最近張り替えたらしく。真新しい感じがした。こちらは当然冷房は効かず、メイン競技場との温度差が激しい。

・ Aspire Sports Hall (室内練習場)

IAAF Indoor認証を持つ。冷房完備で寒いくらい。外気温との差が激しい。メイン競技場から少し距離がある。舗装材はMONDOのSPORTFLEX SUPER X。古いタイプのもので、傷みはあるが、過去に世界室内陸上競技選手権大会が行われたこともある立派な施設。数多くの選手がアップを行っていた。

・ Aspire Park 内投てき練習場

見渡す限り広大な投てき練習場である。普段はサッカー等球技のグラウンドとして利用しているそう。ハンマー投・円盤投・やり投・砲丸投それぞれを練習できる。競技会場の投てき物と同じ種類の物が配備されていた。囲いも2台。

### ○競技場内

・ 走高跳

タイムテーブルによって1ピット、2ピット+円盤投という配置があった。かなり窮屈だがベンチを中央に配置するなど隙間を縫って配置で何とか選手は避けながら競技をしていた。走高跳後にやり投ということもあり、その時は速やかにマットを撤収していた。位置は担当チームのリーダーが決め設置、イギリス応援チームの指摘により修正していた。支柱から外側4mは確保できるようにしていた。技術総務はそこにあまり関わってはいなかったようだ。

・ 棒高跳

予選・決勝により1ピット、2ピットの配置があった。ディスタンスマーカーは走路右側に△でマーキングされていた。使用後の助走路は傷みが激しかった。

・ 走幅跳・三段跳

バックにのみ設置。予選・決勝により1ピット、2ピットの配置があった。風向きは気にしていないようで向きが変わることはなく、初めから使用していない砂場にDOHA 2019のシートが被せられていた。

・ ハンマー投・円盤投

囲いは固定式。ハンマー投げとの兼用。競技がないときはネットを下ろしていた。競技中にネットを下ろすこともあり、その作業は練習していて速やかに行えるようにしていた。ネットのハンドルは軽くものすごいスピードで回っていた。

パネルは軽く一人でも移動できる。そもそも芝にかかっていないので移動も楽である。パネルを閉める位置は事前にマークしてあった。解体は投てきチーム全員で(30名はいたであろうか)全て人力で行っていた。

ハンマー・円盤とも芝には痕跡が深く残っていたが、競技終了後メンテナンスが入り補修していた。

・ やり投

角度線がスターティングラインまで引かれておらずガムテープで延長していた。使用後の助走路の痛みは激しかった。

・ 円弧・距離表示

円弧は投てきチームの数名が担当して引いていた。しっかりと訓練されていてきれいに設置されていた。距離は後から技術総務がチェックとあるが手が回っておらず米岡が立ち会って確認する場面もあった。メジャー・光波で確認していた。距離表示は2本ののみ。大会記録・世界記録はボックスのみ設置。

タイムテーブルにより競技中に設置撤去があったが、よく訓練されていて正確にスピーディに行われていた。何事も「少人数でスピーディに」がモットーらしく、余計な者は外に出ないようにしていた。

設置撤去とも巻き取り機をその場まで持っていき直接巻き取り、設置をしていた。テープがナイロン製で軽いためにはできたのかもしれない。乱雑でなく見た目にも美しく設置していた。

厳しいタイムテーブルで種目の転換により引き直しがあったが、前もって釘を打っておいて速やかにできるようにしていた。

## ○器具検査

- ・細かな検査（ハードルの転倒、走高跳用バーのたわみなど）は事前に行ったと言っていたが、具体的にどうやったかは確認できなかった。当日には行っていない。投てき物に対しては、重要ポイントのみ押さえ、砲丸、円盤以外は簡略化していた。
- ・検査キット（モンド社製でノギス大小、コンボックス等の入った物）が2セット、投てき物検査キット（GILL社製で、やり、円盤、砲丸等を検査用）が1セット準備されていた。このキットはぜひ日本の競技場にも完備してほしい。ドーハではリースではなく購入したそう。
- ・検査室は器具庫の中の一角にあったが、当日の器具検査担当は配置されていなかったため山口及びボランティア（検査経験はないが競技会ルールは理解している）が検査を担当し、地元役員は器具の個数チェックのみ行っていた。
- ・検査の終わった器具は、技術総務とイギリスチームの担当が再チェックを行っていた。また、予選が終わって決勝の前には再チェックを行っていた。囲いにあたって変形した円盤を不合格にしたこともあった。

## (3) 前日の確認・準備

- ・使用器具・使用施設のチェック
  - ・ハードル設置方法の決定
  - ・テストイベント
- 準備からを含めて競技会形式での確認が行われた。確認しながらなのでタイムテーブルは大幅にずれた。

## (4) 競技会期間中の毎日の基本的な流れ

- 資料は毎日、「タイムテーブル詳細」「スタートリスト」が配られる。
- ・イギリスからの応援チームと技総とで前日の反省と当日の流れの確認
  - ・地元 Technical Member との打ち合わせ
  - ・持ち込み器具の再チェック
- 技術総務、イギリスの担当と検査した器具の再確認。予選終了時にも行う。（使用中に傷みがないか等）
- ・各競技準備状況の確認・チェック
- 現地に行って標示距離の確認、セッティングの確認を行う。
- ・競技中は現地で適正に競技が行われているかの確認。場面転換時の確認。ハードル、移動障害の設置確認。
  - ・インフィールド転換
- イブニングセッションしがなく、タイムテーブルは厳しいものがあった。やり投・走高跳・円盤投・ハンマー投はAゾーンのみ使用。棒高跳はBゾーンのみ。砲丸投は日によってABゾーンということでAゾーンの転換が大変であった。「やり投→走高跳→円盤投」「ハンマー投→走高跳」「ハンマー投→やり投」「三段跳→走高跳」などの転換があり、すべて計画的にスムーズに行われていた。円弧の張り替え、距離表示の変更等訓練がなされていた。走高跳のマット撤

取もスムーズであった。撤去がすぐ近くのゲートからできて、置いておくスペースがあったため、さっと運び出すことが可能であった。東京大会でも多くの転換があるが、計画的にスムーズに行えるよう工夫が必要であると思う。

## (5) 総括

- ・施設、器具関連の管理・設置・撤去をすべて技総チームが総括しており、意思統一がしやすいと感じた。それぞれの担当が責任をもって計画、訓練を行っており、「最少人数で素早く、スムーズに美しく」をモットーに チームとして統一した動きをしていたと思う。技総チームとしては大きなミスもなくしっかりとした競技運営を行っていた。日本での審判活動に通ずるところもあり、参考になった。
- ・器具検査に関しては、簡易的に行っており世界大会でこれはどうかと感じることがあった。担当はいたが検査の仕方をよく知らず、結局、山口がすべてを検査した（その分感謝された）。その後、技総とイギリスチームが再確認したが、やりの検査など重さや重心の検査だけでなくしっかり行う必要があると感じた。
- ・技術総務に任務が多すぎてカバーしきれないと感じる場面もあった。やはり責任のある者に分担していかないと競技運営上支障を来す場面があるかもしれないと思った。今回はイギリスチームと自分たちでフォローしたが、我々の大会ではうまく分担を考えてよりスムーズな競技運営を行いたい。
- ・イギリスのサポートチームに頼る場面が多くあった。多くの事項を指摘され修正した。TDからの指摘もあったが、ほぼすべてのことにわりイギリスチームが関わりサポートしていた。東京大会ではどのようになるかわからないが、あまり頼りすぎず協力して任務を行っていきたい。

## (6) さいごに

今回の世界陸上ドーハ大会では、TD、Technical Manager、Assistant Technical Manager、ITOとともに競技会に携わることができ、大きな財産になりました。朝のミーティングから、競技場内の確認、器具の検査・準備、フィールド競技の種目転換、片付けと、毎日が新鮮でした。国内の大会では経験できないような内容が盛りだくさんでした。この経験を是非とも来年のTOKYO2020大会に生かしていきたいと思います。現地てたいへんお世話になった、ヤコブ氏、シャディ氏はじめ、多くの方々に感謝し、報告といたします。（山口賢司）

地元のLOCのメンバーの中に入れてもらって審判活動をすることができた。初めはお客様扱いでただ見ているだけという状態もあったが、少しずつ話をしていく中で、「この素晴らしいチームで一員として力になりたい」という想いが伝わり、一緒に活動させてくれるようになった。世界大会の大観衆の中でハードルのセッティングをした時は心が震える思いであった。様々な活動を通して多くを体験し学ぶことができた。イギリスチームのメンバーからも多くを学ぶことができた。いつも気にかけてくれて、質問すると何でも親身になって答えてくれた。特にキース氏はその動きから学ぶことが多かった。いつも競技場をめぐりチェックしていた。そこに同行しチェックを手伝いながら必要な事項を体感することができた。12日間と長い期間であったが、あっという間に過ぎたと感じるくらい充実した日々を送ることができた。来年の東京大会のみならず、普段の審判活動・施設用器具委員としての活動にすべてを活かしていきたい。

このような貴重な場面を設定してくれた関さんを始め、日本陸連事務局の方々、高木委員長を並びに施設用器具委員会の委員の方々、現地でいろいろ教えていただいたイギリスチームの方々、ユニフォームの手配や食事の提供を含む全ての審判活動のサポートをしてくれたヤコブ氏、シャディ氏並びに現地の技総チームの方々に心から感謝したいと思います。ありがとうございました。（米岡利昌）



# 国際陸連 (IAAF) CECS Level II Lecturers Course 参加報告

指導者養成委員会 森 健

1. 期間：2019年10月31日（水）～11月4日（月）
2. 場所：中国、首都体育学院
3. 講師：Mr. Yingbo ZHANG (CHN) and Mr. Ria Lumintuarso (INA)
4. 参加者：中国3名、香港2名、マカオ1名、ヴェトナム1名、日本1名（森）の合計8名であった。いずれの参加者も、中学校、高校、大学の教員であり、各国において選手を指導しており、普及や強化に関わっているコーチであった。
5. 内容および所感

講義はすべて英語および中国語で行われた。まず、初日に New CECS (Coaches Education Certification System) Level II についての講義があり、変更点や留意点について説明があった。2016年に現行のシステムに変更となり、「Coach's eye」と「Motor density」が主要なキーワードとして挙げられている。その他は、これまでと同様に「Introduction of Coaching」および「RUN JUMP THROW」のテキストをベースに講義が展開されたが、New CECS Level II およびⅢでは新たに「LEICHTATHLETIK: Trainings- und Bewegungswissenschaft - Theorie und Praxis aller Disziplinen」がテキストとして用いられている。さらに、E-Book (Multiple interactive Hyperlinks) の活用についても紹介があった。2日目および3日目は全日、受講生のプレゼンセッションに当てられ、各受講生に合計4回のプレゼンが課せられた。内容は、バイオメカニクスや運動生理学、栄養学などの理論と、競技種目の技術理論、競技種目の実践（テクニカルモデルとコンディショニングトレーニング）であり、担当する講義科目や種目についてはランダムに決定された。4日目は筆記試験が行われ、5日目に試験結果のフィードバックと講評があった。

E-Bookとは、Video Library、Coaches' Eye、Microcycle Puzzle (Planning)、Document Library、Propaedeutic (Research) の5項目で構成されている内容の総称である。い

ずれの項目においても、Web上にモデルが示されており、指導に活用できることやコーチ育成にも活用できるようにシステムが構築されている。Coach's eyeにおいてはテクニカルモデルが必要であり、テクニカルモデルはVideo Libraryが多分に活用できるとのことであった。映像から「Errors - Causes - Corrections」を理解し、指導できるようにする内容である。そして、指導者は、テクニカルモデルに基づいてその種目における技術指導を行うこと、競技者に合わせた正しい技術内容を選択すること、そして、失敗について分析をする能力を高めること、また、その失敗の原因を理解することが求められる。特にバイオメカニクスの視点から、なぜそのような動作になるのか、なぜそのような失敗を行ってしまうのかについてコーチは学ぶ必要があることが強調された。コーチの育成において、技術的指導だけでなく、多面的な能力の育成が必要であり、様々なツールを活用することも必要であることが感じられた。そして、Athlete Centeredの信念のもと、Science Basedに理論を構築し、Coach Driven（コーチ育成）を行っていくことが重要であるとまとめられた。

このCECS Level II Lecturers Courseを取得したことにより、ADC内で開催されるCECS Level I Courseの講師を担当できることになる。世界においても指導者の育成は急務であり、その必要性が説明された。日本においても、CECS Level Iを開催し、指導者育成を継続的に取り組んで欲しいとの話もいただいた。2019年から日本陸連における普及育成委員会が指導者養成委員会へと名称が変更になり、指導者養成に重点が置かれるようになったことから分かるように、その必要性は十分に認知されている。そのため、この講習会で得られた内容をコーチ1（ジュニアコーチ）やコーチ3（公認コーチ）での講習会に還元していくことも求められていると感じられた。

最後に、CECS Level II Lecturers Courseに参加する機会をいただいた日本陸上競技連盟関係各位と講師のZhang氏とRia氏、ADCの関係者にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。





# 東京マラソン前日祭



2020年  
2月29日  
[土]

明治神宮外苑会場

丸の内会場

TOKYO MARATHON 2020  
FAMILY RUN

TOKYO MARATHON 2020  
Friendship Run

TOKYO MARATHON 2020  
1 MILES

TOKYO MARATHON WEEK 2020

TOKYO MARATHON 2020

主催：一般財団法人東京マラソン財団

2020年3月1日(日)開催

詳細情報・参加申し込みは  
東京マラソン2020大会公式ウェブサイトへ ▶▶▶▶▶  
[ [https://www.marathon.tokyo/events/pre-race\\_festa/](https://www.marathon.tokyo/events/pre-race_festa/) ]



東京マラソン前日、あなたは誰と走る？

2020年  
2月29日  
[土]

# 東京マラソン前日祭

東京マラソン前日祭は、明治神宮外苑と丸の内(2)ヶ所にて開催。



## 明治神宮外苑会場

TOKYO MARATHON 2020  
Friendship Run

海外ランナーと走ろう

フレンドシップラン

申込期間  
2019年(令和元年)  
12/5(木)10:00~  
2020年(令和2年)  
1/17(金)17:00

種目  
ファンラン  
約4km

定員  
3,000名(先着)

協賛

参加料  
4,000円(税込)



TOKYO MARATHON 2020  
FAMILY RUN

家族と走ろう

ファミリーラン

申込期間  
2019年(令和元年)  
12/6(金)10:00~  
2020年(令和2年)  
1/10(金)17:00

種目  
ファンラン  
約2km(一般・車いす)

定員  
1,050組2,100名(抽選)  
一般:1,000組2,000名  
車いす:50組100名

協賛

参加料  
1組4,000円(税込)

一生運のパートナー

第一生命



TOKYO MARATHON 2020  
1 MILES

国立競技場のサブトラックで走ろう

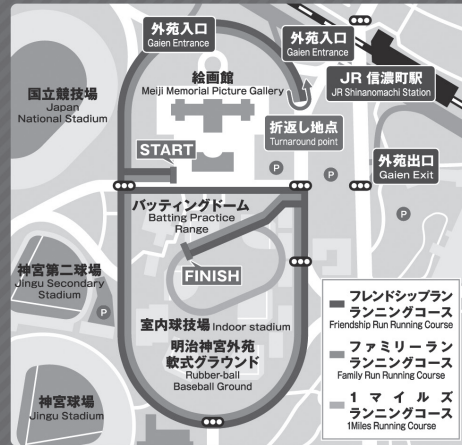
1マイルズ

申込期間  
2019年(令和元年)  
12/5(木)10:00~  
2020年(令和2年)  
1/17(金)17:00

種目  
1マイルタイムトライアル  
4×400mリレー  
4×1マイルリレー

定員  
1マイルタイムトライアル: 350名(抽選)  
4×400mリレー: 7チーム(抽選)  
4×1マイルリレー: 27チーム(抽選)

参加料  
1マイルタイムトライアル: 4,000円(税込)  
4×400mリレー: 1チーム4,000円(税込)  
4×1マイルリレー: 1チーム8,000円(税込)



### 明治神宮外苑会場へのアクセス

#### 電車でお越しの方

JR中央・総武線「信濃町駅」より徒歩5分  
都営大江戸線「国立競技場駅」より徒歩5分  
東京メトロ銀座線・半蔵門線、都営大江戸線「青山一丁目駅」より徒歩10分

#### お車でお越しの方

最寄のICは「首都高湾4号新橋線外苑出口」ご利用が便利です。

## 丸の内会場

みんなで楽しもう

東京マラソンウィーク2020オフィシャルイベント  
フィニッシュエリアを観に行こう!  
丸の内仲通りイベント

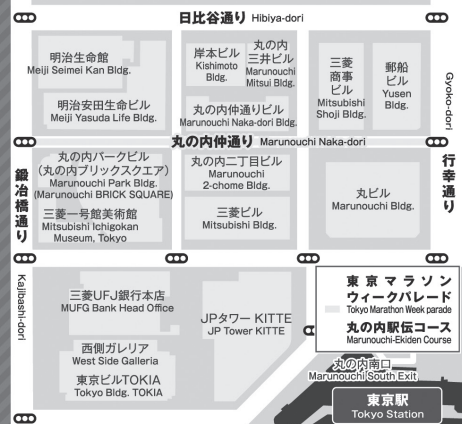
東京マラソン  
ウィークパレード

出場する外国人ランナーと応援者が各国の旗を振りつつ丸の内仲通りを練り歩きます。  
※パレード参加は事前申込制となります。

丸の内駅伝  
2020

丸の内エリアの事業者の健康意識の向上や交流を深める事業者参加型イベントです。  
※駅伝参加は事前申込制となります。

最新情報は公式ウェブサイトでお知らせします。



### 丸の内会場へのアクセス

#### 電車でお越しの方

JR線・東京メトロ丸の内線「丸の内南口」より徒歩1分  
JR線・東京メトロ有楽町線「有楽町駅」より徒歩3分  
東京メトロ日比谷線・千代田線、都営三田線「日比谷駅」より徒歩1分

# 第28回日本陸上競技連盟トレーナーセミナー開催案内

## 陸上競技現場で活動するトレーナーのためのセミナー

1992年、日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー部は、1) 陸上競技における選手サポート体制の確立、2) トレーナーの意識、知識、技術の向上、3) トレーナーの地位確立、を主旨として設立されました。

トレーナー部では毎年「日本陸上競技連盟トレーナーセミナー」を開催しており、今回で28回目を迎えます。すでに多くの方がトレーナー部部員として、日本各地で地域に根ざしたトレーナー活動や、トップアスリートが参加する国内外の競技大会における救護活動やコンディショニングなど、幅広いサポート活動を行っています。またセミナー修了者を対象に年2～3回の研修会も開催しています。

第28回セミナーは以下の要領で開催いたします。受講希望の方は申込方法に従ってお申込下さい。

### 記

**主催：**公益財団法人日本陸上競技連盟

**運営：**公益財団法人日本陸上競技連盟 医事委員会 トレーナー部

**期日：**2020年3月20日（金）～22日（日）（3日間）

**場所：**国立スポーツ科学センター 研修室

**参加費：**¥25000（教材費込み）

**定員：**100名（先着順）

**参加資格：**①現在陸上競技の現場に携わっている方（治療院・病院のみの活動では不可）

②救急法に関する資格を保有、もしくは救急法に関する講習等に参加したことがある方。  
かつ、他人の助力なしに一人で救護活動ができる方。

③3日間全日程を受講できる方

④高校卒業以降の方

**申込方法：**日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー部のページの、お申込みフォームに必要事項を記載し、お申し込みください。

\*サイトは1月7日（火）よりオープン致します

\*記載に漏れがある場合は、申込を受諾できませんのでご注意ください。

申込みHP：<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/trainer/>

**受付開始：**2020年1月7日（火）

**締め切り：**2020年1月21日（火）

\*受講受付は基本的に先着順とします。また、お申し込みが定員以上で、同一所属団体（学校）からのお申し込みが多数の場合、所属団体内の調整をお願いする場合がありますので、予めご了承ください。

\*定員を超えた場合は、陸上競技現場での活動状況により、お断りすることがあります。

\*2月下旬迄に参加の採否をメールにて通知させていただきます。

\*お問い合わせは、E-Mailにて、日本陸連トレーナーセミナー係、担当村田まで。

その際、件名に「第28回トレーナーセミナーについて」と記載してください。

**E-mail：**trainer-kensyu@jaaf.or.jp

### 〈カリキュラム〉

「トレーナーガイダンス」

「健康管理」

「ドーピング・コントロール」

「整形外科－体幹・脊柱－」

「整形外科－下肢－」

「整形外科－上肢－」

「婦人科疾患」

「栄養学」

「バイオメカニクス」

「コンディショニング」

「アスレティックリハビリテーション」

「救急法」

\*講師は本連盟医事委員会委員のドクター、トレーナー部委員を予定しています。

# 2019数字で見る陸上競技 都道府県別 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者数(陸上競技)

事務局

2019数字で見る陸上競技、今回は陸上競技における日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の有資格者数(都道府県別、資格別)をご紹介します。  
 なお、今回紹介する数字は、2019年10月1日付けの登録者数です。

NO.	都道府県	コーチ1	コーチ2	コーチ3	コーチ4	合計
		JAAF公認ジュニアコーチ		JAAF公認コーチ		
1	北海道	91		16	7	114
2	青森	56	2	15	5	78
3	岩手	56		26	6	88
4	宮城	57		8	2	67
5	秋田	38		11		49
6	山形	88		20	5	113
7	福島	115		29	3	147
8	茨城	39		28	11	78
9	栃木	38		20	4	62
10	群馬	86	1	24	3	114
11	埼玉	167	2	44	12	225
12	千葉	106	2	43	11	162
13	東京	291	3	75	20	389
14	神奈川	162		28	9	199
15	新潟	79	6	23	5	113
16	富山	87	0	11	1	99
17	石川	55	1	9	3	68
18	福井	61		19	2	82
19	山梨	34	12	17	4	67
20	長野	51	2	34	5	92
21	岐阜	52	5	16	4	77
22	静岡	113	6	25	6	150
23	愛知	92		42	4	138
24	三重	80	1	29	4	114
25	滋賀	54		24	4	82
26	京都	61		32	5	98
27	大阪	136	3	17	3	159
28	兵庫	98		23	1	122
29	奈良	31		17	1	49
30	和歌山	85		9	4	98
31	鳥取	42		8	1	51
32	島根	23		6	3	32
33	岡山	46		13	5	64
34	広島	130	3	23	7	163
35	山口	65	2	13	5	85
36	徳島	30	1	11	1	43
37	香川	44		19	3	66
38	愛媛	40		19	4	63
39	高知	36	1	14	1	52
40	福岡	101	1	16	8	126
41	佐賀	42		14	2	58
42	長崎	56	7	15	1	79
43	熊本	47	1	15	5	68
44	大分	42	14	14	1	71
45	宮崎	85	2	17		104
46	鹿児島	68		28	1	97
47	沖縄	36	1	2	2	41
合計		3,492	79	981	204	4,756

# 大会観戦ガイド

## 男子第70回 女子第31回 全国高等学校駅伝競走大会

師走の都大路を走る全国高校駅伝。今年、優勝するのはどのチームになるのでしょうか。是非、沿道、競技場で応援ください！

▼日時：2019年12月22日（日）

女子10時20分スタート

男子12時30分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場

▼アクセス：京都駅より

- ・阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩10分
- ・京都市営バス73号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分

▼区間・コース：

〈男子〉男子全国高校駅伝コース7区間42.195km

- ・第1区10km（西京極陸上競技場－烏丸鞍馬口）
- ・第2区3km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）
- ・第3区8.1075km（丸太町河原町－国際会館前）
- ・第4区8.0875km（国際会館前－丸太町寺町）
- ・第5区3km（丸太町寺町－烏丸紫明）
- ・第6区5km（烏丸紫明－西大路下立売）
- ・第7区5km（西大路下立売－西京極陸上競技場）

〈女子〉女子全国高校駅伝コース5区間21.0975km

- ・第1区6km（西京極陸上競技場－平野神社前）
- ・第2区4.0975km（平野神社前－烏丸鞍馬口）
- ・第3区3km（烏丸鞍馬口－室町小学校前折返し－北大路船岡山）
- ・第4区3km（北大路船岡山－西大路下立売）
- ・第5区5km（西大路下立売－西京極陸上競技場）

▼大会公式サイト：

<http://mainichi.jp/koukouekiden/>

▼問合せ先：全国高等学校駅伝競走大会事務局

（京都府立北桑田高等学校）

TEL 090-2108-8582

## 皇后盃 第38回全国都道府県対抗 女子駅伝競走大会

新春の都大路で競う皇后盃全国女子駅伝。47都道府県を代表する中学生から一般までの選手に、是非、沿道、競技場でご声援ください！

▼日時：2020年1月12日（日）12時30分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場

▼アクセス：

西京極総合運動公園陸上競技場



昨年度の大会より（男子1区の攻防）

## 天皇盃第25回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

新春の安芸路で競う天皇盃全国男子駅伝。47都道府県を代表する中学生から一般までの選手に、是非、沿道でご声援ください！

▼日時：2019年1月19日（日）12時30分スタート

▼コース：広島市平和記念公園前を出発、平和大通り、宮島街道を西進し、JR前空駅東（廿日市市大野）を折り返し、平和大通り、城南通りを経由、広島市平和記念公園前を決勝とする7区間、48.0kmのコース。

▼アクセス：広島市平和記念公園

JR広島駅から南口バス乗り場A-3ホームより、広島バス24号線吉島営業所または吉島病院行き「平和記念公園」下車、広島電鉄「袋町」下車徒歩10分、「原爆ドーム前」下車徒歩10分

▼区間・コース：7区間48.0km

- ・第1区7km（広島市平和記念公園前－広電井口駅東）
- ・第2区3km（広電井口駅東－海老園交差点）
- ・第3区8.5km（海老園交差点－宮島口ロータリー）
- ・第4区5km（宮島口ロータリー－JR阿品駅南）
- ・第5区8.5km（JR阿品駅南－広島工大高前）
- ・第6区3km（広島工大高前－草津橋）
- ・第7区13km（草津橋－広島市平和記念公園前）

▼大会公式サイト：

<https://www.hiroshima-ekiden.com/index.html>



昨年度の大会より（優勝した愛知、4区・古川から5区・永井へのタスキリレー）

- ・阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩10分
- ・京都市バス32号・73号・80号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分

▼区間・コース：9区間42.195km

- ・第1区6km（西京極陸上競技場－平野神社前）
- ・第2区4km（平野神社前－烏丸鞍馬口）
- ・第3区3km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）
- ・第4区4km（丸太町河原町－北白川山田町）
- ・第5区4.1075km（北白川山田町－国立京都国際会館前）
- ・第6区4.0875km（国立京都国際会館前－北白川別当町）
- ・第7区4km（北白川別当町－丸太町寺町）
- ・第8区3km（丸太町寺町－烏丸紫明）
- ・第9区10km（烏丸紫明－西京極陸上競技場）

▼大会公式サイト：

<https://www.womens-ekiden.jp/>

▼問合せ先：皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝事務局（京都新聞COM事業局内）

TEL 075-213-0367 /



昨年度優勝の福島県

**JAAF**  
HOKKAIDO

## 一般財団法人北海道陸上競技協会

〒003-0626 札幌市白石区本通5丁目南4番11号  
KJビル3号棟2階205  
TEL.011-598-7407 FAX.011-598-7408  
http://hokkaido-rikkyo.jp/

2019年の北海道勢の活躍を紹介します。5月大阪の木南記念、女子やり投で北口榛花選手（日大4年 旭川東出身）が64m36の日本新記録で優勝。6月福岡の日本選手権、北口榛花選手が63m68の大会新で優勝。ドーハ世界選手権の切符をつかみました。男子円盤投で堤雄司選手（群馬総合ガードシステム 札幌北出身）が61m64で優勝。腰の手術を乗り越えた優勝には頭が下がります。女子100m決勝に北海道内の高校生2人が進出。御家瀬緑選手（恵庭北3年）と石堂陽奈選手（立命館慶祥2年）です。優勝は御家瀬緑選手、タイムは11秒67。石堂陽奈選手は堂々の8位入賞。女子100mH 3位の寺田明日香選手（パナソニックグループ 恵庭北出身）は家事と育児をこなすママさん選手。女子走高跳2位の京谷萌子選手（北海道ハイテクAC 恵庭北出身）。女子走幅跳6位の平加有梨奈選手（ニッパツ 恵庭北出身）。男子は小池祐貴選手（住友電工 立命館慶祥出身）が100m 3位・200m 2位と活躍。7月ヨーロッパのダイヤモンドリーグ、男子100m 9秒98で4位入賞。日本人3人目の9秒台に地元は大喜び。秋の競技会では、寺田明日香選手が女子100mHで12秒97の日本新記録。日本人初の12秒台。城山正太郎選手（ゼンリン 函館大有斗出身）が男子走幅跳で8m40の日本新記録。10月のグランプリシリーズ最終戦、女子やり投で北口榛花選手は66m00の日本新記録樹立。皆さん本当に凄いです。また、競技者のお手本ともいえる男子混成競技の右代啓祐選手も素晴らしい活躍をしてくださいました。全国のアスリートの皆さんを応援します。

**JAAF**  
AOMORI

## 一般財団法人青森陸上競技協会

〒038-0021 青森市安田字近野234-7  
青森総合運動公園陸上競技場内  
TEL.0173-34-7537 FAX.0173-34-7537  
http://www.jomon.ne.jp/arikkyo/

新陸上競技場が9月から使用開始になり、県高校新人・県秋季選手権・県小学校記録会・東北高校新人・県中学校新人大会を実施いたしました。競技運営には多少の戸惑いがあったものの、2019年度の予定されたトラック&フィールドの県内の競技会は無事に終了いたしました。

今後は駅伝を中心とした県外競技会に参加予定です。1月12日（京都）の都道府県対抗女子駅伝競走大会、1月19日（広島）男子駅伝競走大会が主となります。また、県内競技会は、地区別に1月～3月各地区において室内競技会が予定されています。

会議予定は、今年度の4月から10月までの事業中間報告と、2020年度事業予定について検討の予定です。12月14日（土）業務執行役員会・代表選手選考委員会・2020年に入り、1月26日（土）三役会・2月2日（日）常任理事会・2月9日（日）評議員会を予定しております。

選手強化事業としては、県外合宿は12月末～1月都道府県対抗駅伝選抜選手県外強化合宿・1月～3月種目別選抜県外合宿・12月と3月に中学生選抜県外合宿が計画されております。また、県内強化事業としまして新陸上競技場の室内周回走路（1周543m）および、室内雨天練習場（100m 4レーン）を利用して12月～3月に各ブロック別練習会を予定しております。

(文責：理事長 安田信昭)

**JAAF**  
IWATE

## 一般財団法人岩手陸上競技協会

〒020-0822 盛岡市茶畑2-8-27  
TEL.019-621-8460 FAX.019-656-9006  
http://long-distance.jp/iwate/

令和元年度のシーズンも残り数ヶ月となり、岩手陸上競技協会として臨む大会は、男女の都道府県対抗駅伝を残すのみとなりました。9月の全日本実業団では藤沢沙也加選手（岩手女子高校→岩手大学→セレスポ）が200mで優勝し、10月に行われた茨城国体では、佐藤征平選手（高田高校→国士舘大学→国士舘クラブ→新潟アルビレックスRC）が国体2連覇を達成してくれました。また、初開催となったいわて盛岡シティマラソンでは、県内外を合わせ1万人弱のランナーが参加していただき、秋の趣が深まる県都盛岡の街並みの中を爽爽と駆け抜けました。

今年を振り返ると、競技においては、主に成年競技者が競技力の維持とさらなる向上に努め、運営においては、新たな大会をスタートさせ、令和元年に相応しい年であったと思います。

新年は、いよいよ東京オリンピックの年となり、例年とは違う状況で迎えることも多いと思います。そのような中でも、協会のフラッグシップとなる国民体育大会では、今年以上の成果と成功を収めることができるように努めてまいります。

また、競技力の向上ばかりに囚われず、陸上競技の活動を通しての人格形成、スポーツの普及が進展するよう、微力ながらも、協会としても尽力していきたいと考えております。

今シーズンもここで、一般財団法人岩手陸上競技協会として選手強化と普及育成、競技運営等、組織および事業の展開に努めてまいりました。関係各位の皆様にご支援と御協力を賜りましたことにお礼を申し上げますとともに、引き続き来年もよろしく願い申し上げます。

(文責：強化部長 藤井雅史)

**JAAF**  
MIYAGI

## 一般財団法人宮城陸上競技協会

〒981-0122 宮城郡利府町菅谷字館40-1宮城県総合運動公園内  
TEL.022-767-2194 FAX.022-767-2194  
http://jaaf-miyagi.com/

2019年度は、役員改選の年に当たり、会長をはじめ多くの役員の大規模な入れ替えがありました。戸惑うこともありましたが、何とか無事に1年を終えることができそうです。御協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

ひとめばれスタジアム宮城では、来年度に迫ったオリンピックの準備が始まり、7月中旬から使用できなくなりました。そのため、仙台市陸上競技場を中心に、各地の競技場を使用しての大会となり、苦労した面も見られましたが、次第に慣れてスムーズに大会運営ができるようになりました。

今年度の宮城県選手は、青木益未選手（七十七銀行）が第23回アジア陸上競技選手権大会で100mH 3位、鶴澤飛羽選手（築館高）が第72回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会で、2年生ながら100mと200mの2冠、伊東津準選手（築館小）が第35回全国小学生陸上競技交流大会の100mで、県内の小学生として初めて12秒の壁を突破する11秒97で2位に入賞するなど、一般から小学生まで、数多くの選手が全国大会等で活躍をしました。

また、今年度は台風や集中豪雨などの災害の多い年でもありました。被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

本県でも、10月中旬に予定していた「東北・みやぎ復興マラソン2019」が台風19号の影響で中止となりました。県内はもとより、全国各地から約14,000人の参加申し込みがありましたが、選手の皆様の安全を第一に考えた苦渋の決断でした。今年度参加できなかった皆様には、来年度もぜひ参加申し込みをしていただき、被災地の復興にお力添えいただければ幸いです。心からお待ちしております。

(文責：総務委員長 山田信)





事務局からのお知らせ

◆◆ダイヤモンドアスリート特設ページ公開中!!◆◆

本連盟認定の「ダイヤモンドアスリート」に関する情報提供を目的とした特設ページを公開しております! 「リーダーシッププログラム」をはじめとしたダイヤモンドアスリートの活動情報を随時掲載いたします。第6期認定アスリートの紹介動画も公開中!

<http://www.jaaf.or.jp/diamond/>



◆◆2019年日本グランプリシリーズチャンピオン決定!◆◆

全14戦とポイント対象大会(全3戦)が終了し、「シリーズチャンピオン」、「種目別チャンピオン」総勢40の2019チャンピオンが決定しました!

〈シリーズチャンピオン〉

【男子】高山峻野(所属:ゼンリン/登録陸協:東京)  
【女子】北口榛花(所属:日本大/登録陸協:北海道)

種目別チャンピオンは日本陸上競技連盟公式HPへ

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/13351/>



写真提供: フォート・キシモト

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩(陸連会長)  
友永 義治(陸連副会長)  
八木 雅夫(陸連副会長)  
尾縣 貢(陸連専務理事)  
麻場 一徳(陸連強化委員長)  
風間 明(陸連事務局長)  
牧野 豊(陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘  
◇時報編集担当  
繁田 進  
石塚 浩  
木越 清信  
宮田 宏  
廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒160-0013  
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2  
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階  
日本陸上競技連盟内  
TEL: 050-1746-8410  
FAX: 050-3588-1869